

寺
ごよみ

一 月

一 日 年頭参り

三 日 日校かるた会

一 日 本山御正忌

一 二 日 参拝旅行

一 四 日 御正忌準備

御正忌

一 五 日 午前十一時

下村お講

午後一時 法要

午後七時

釈の日

一 六 日 午前十一時

浦山・栃屋・

熊野・大橋お

講

午後一時 法要

ご講師 高務哲量師

寺 報
善 巧
ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富 山 県
黒部市宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル info@zengyou.net
U R L http://www.zengyou.net

賀 正



ほんこさまスナップ写真

作家の五木寛之さんが話されていた、韓国に伝わるお話を紹介します。

「お前が大人になると不思議な経験をする。あるとき何の理由も原因もないのにふと心が翳って無力感を覚え、心萎えた状態に落ち込んでしまう。

その状態では血のつながつた人でも赤の他人のように感じ、職場の仲間や幼馴染も自分の敵のように感じてしまう。自分の持っている将来への希望も取るに足らないもののように感じ、自分の存在までもどうでもいいと感じる。このような状態に始めて遭遇すると誰もが不安を覚え精神がおかしくなったようになる。

向こう気の強い人間はこんなものはがんばって乗り越えろといい、気楽な人は楽しいことで気を紛らわしてやり過ごそうなどという。しかしこのような感情に落ち込んだ時

には何をやっても無駄なんだ。

これは恨（ハン）というすべての人のこころに存在し、一生人は恨を抱えて生きていき、恨は時々目をさまして訪れてくる。人は一生のうちに何度も恨を体験するもので、恨

恨は何度もやってくる

がやってきたときには、身をすくめて納得する。肩を落とし、背中を丸め、しゃがみこんで何度も何度も大きなため息をつく、するとほんの少し肩の重さが軽くなる。そのときに立ち上がって歩けばよい。」

世の中、気を紛らわすものは溢れています。が、それは問題を先送りするだけのことでしょう。仏教は、漢方のようなもので、特効薬のように即効性はありませんが、腰を据えて向かい合えば、きつと糸口が見えてくると信じています。

善巧寺住職

雪山 俊隆

空華忍び法話

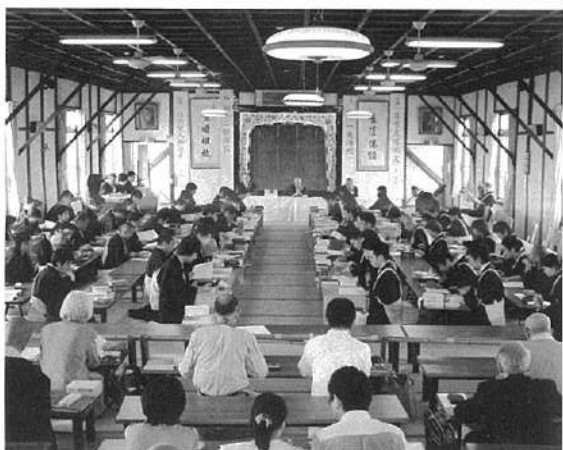
講師：利井唯明師

皆さまこんばんは。ようこそそのお参りです。この空華忍は明教院僧鎔和上の祥月命日に合わせての法要でございます。回忌でございますと二七回忌にあたります。僧鎔和上は空華廬といって、ここで塾を開いておられまして、門弟三千人といわれる程の大きな学派になっております。そのお弟子さんには柔遠和上、道隠和上のお二方がおられます。京都の大谷本廟に行きますと、勧学峪という勧学のお墓がずらっと並んでいる所があります。その一番真ん中に僧鎔和上のお墓、そして柔遠和上と道隠和上のお墓が一体となって並んでいます。その両脇にずらっと勧学さんのお墓が並んでいるような形です。この並びは、会読の時の並び方で、

問答する時の形式なんです。典儀といわれる問答をさばっていく司会者のような人が真ん中におられて、両脇のお坊さんの一方が問いを出して、片方が答えていくのです。

この勧学峪の一番入り口のところに、門番のようい雪山家のお墓がございます。僧鎔和上が亡くなられた後、道隠和上は大阪のほうへ行って塾を開いております。後に、大分、豊前に転居されていかれましたが、この大阪の塾からは松島善讓和上などがお出ましになりました。この系統を堺空華といいます。一方の柔遠和上の方は、越中の方へ留まっております。この空華廬を引き継いで講義をされておりましたので、こちらの系統を越中空華といいます。どちらも僧鎔和上の学説を補い補い、また膨ら

ませておりますから、言われているところの幅が広がったというくらいに思っております。結構かと思えます。柔遠和上のお弟子さんには、行照というお方が出られまして、この方は今の岐阜県、美濃の行照さんといって空華廬で学んだ後に岐阜にもどり、塾を開いております。僧鎔和上のお弟子さんは皆優秀ですから、戻った所で塾を開いていきます。その行照さんのお弟子さんにあたるのが、私から言いますと曾々爺



さんにあたります鮮妙さん、利井鮮妙でありまして、今私共がやっております行信教校の創始者の一人になるわけです。柔遠和上がこの越中で塾を開き沢山の門弟がおつたわけですが、門弟のことを自分の弟子とは言われませんでした。「善巧寺にある僧鎔和上のお墓に参つて、空華の学徒としてお弟子さんにならなさい」と言われました。ですから行信教校でも、三年に一回ここへ学生が来るわけです。お墓参り

をして初めて空華のお弟子の一員に加えて頂く。お弟子といったら大層ですが、そういう経緯がありまして、柔遠和上のお言葉が一つのご縁になっておるわけです。

親鸞聖人も「歎異抄」の中で「私は弟子一人ももつておらん」とおっしゃったでしょ。あれと一緒にすな。私というものが弟子をとるというものではない。決してない。「私は師匠の仰せに順つておるだけなんだ」そういう姿勢でしようね。私が私と言うていのが正しいかといったら、そうじゃなかった。そういうことで、この度、空華の里であります善巧寺様にご縁をいただまして、私もその一人としてお話をさせて頂くわけです。

親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息

平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人の七百五十回忌にあたります。本願寺では、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を平成二十三年四月よりお勤めすることになりました。このご縁に、聖人のご苦勞をしのび、お徳を讃えらるることも、浄土真宗のみ教を深く受けとめ、混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

親鸞聖人は承安三年に御誕生になり、九歳で出家得度され、比叡山で學問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、二十九歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身となられました。三十五歳の時、承元の法難により、越後に流罪となられますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本願の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、九十歳を一期として往生の素懷を遂げられました。

親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿彌陀如来の本願力によって、往生成仏し、この世に選って迷えるものを救うためにはたくという教えです。南無阿彌陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていたのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人の利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿彌陀如来の智慧と慈悲に照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合って、往生浄土の道を歩むことでもあります。如来の智慧によって、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることでできる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思えます。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合ってこられました。この良き伝統を受け継ぎなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組むことになっています。七百回大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同期運動の精神を受け継ぎ、現代社会に伝える宗門を築きたいと思えます。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教を伝えなければなりません。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに、各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積極的な協賛・協力ご参加を心より期待いたします。

平成十七年
二〇〇五年
一月九日

龍谷門主 釋 即 如

記念事業浄財

平成二二年九月～二四年三月

※今年度のほんこさまよりお願いしております。振り込みも可能です。

本堂修復工事着工

平成二四年四月～九月予定

※この期間は別室を仮本堂とします。

西本願寺の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

平成二四年四月～二五年一月

※黒部地区の浄土真宗寺院合同で、団体参拝が予定されております。

善巧寺の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

平成二五年一〇月一九～二〇日

※稚児行列や帰敬式（おかみそり）を予定しております。

報恩講

十月十九・二十日

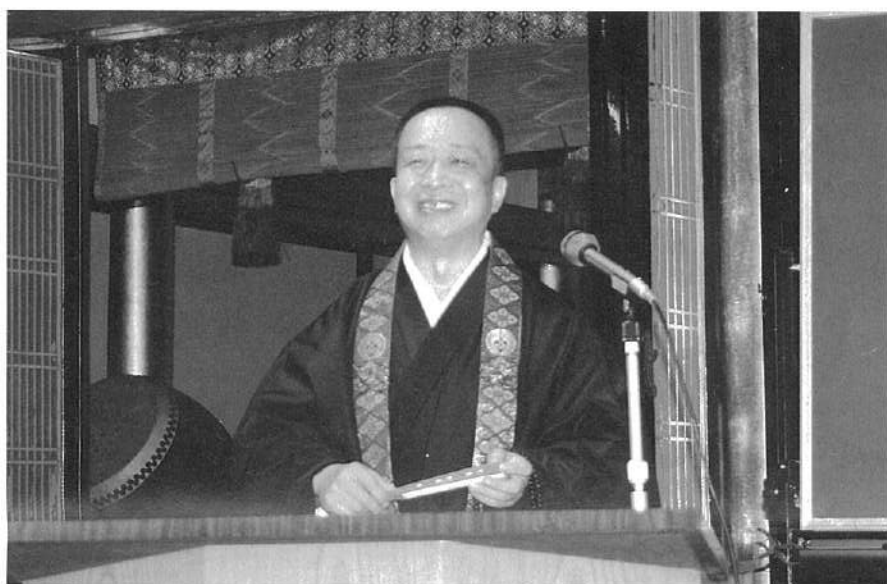
十月十九、二十日と二

日間にわたって恒例の報

恩講が営まれました。

お世話方は、清掃から

始まって、お道具磨き、



米とぎ、おけそく作りと準備を進めてくださいました。教化部は仏婦の役員さんたちとお寺クイズの練習もあり、大忙し。そんな中、構内の僧侶方にご出勤いただき、法話には若栗の発願寺住職にお越しいただき、お初夜

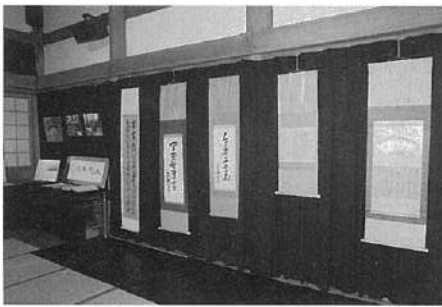
には内陣に上がってご絵伝を絵解きしていただきました。お楽しみとして今回も浦山新のご協力のもと、カボチャ重量当てが行われ、一番近い重量を当てた人に賞品が渡されました。



空華忌

十一月四・五日

明教院僧録師の二二七回忌・空華忌が、十一月四日のお初夜から五日のご満座までの三座勤まりました。今回は三年に一度、行信教校から学生さんがお参りされる年にあたり、四十名を超える若き僧侶が集いました。日本中で新型インフルエンザが流行し、その恐れを抱きながらのお勤めになりました。お互いの交流ができたことは寂しい限りでしたが、学生さんもお同行も良いご縁にあえたことを喜びました。



仏教婦人会總會 十周年記念



年会長を務められた元仏
婦会長の菊地れいさんに
会から感謝状と記念品が
手渡されました。

ご講師の高務先生はへあ
えてよかったと題して、
前住職の隆弘の思い出か
ら、残された言葉を取り
次いでくださいました。
久しぶりにわかはんを思
い出して涙する会員も見
受けられました。

十二月十二日午後、善
巧寺仏婦総会が開催され
ました。お講が中心の組
織に変更してからちよう
ど十周年にあたり、ご講
師をお招きしての記念大
会になりました。参加人
数も五十名と賑やかな総
会になりました。

佐々木会長の仏旗入堂
に始まり、各お講から十
名が献灯献花しました。
進行役を野村千恵子さん、
仏婦綱領を野村智恵子さ
んが担当。

来賓の総代
代表・責任役
員の有馬文義
さん、元仏婦
会長の菊地れ
いさんからお
祝いの言葉を
いただきました。
また、長



総会は佐々木会長の進
行でスムーズに行われ、
二十一年度の報告が承認
されました。これで二年
間勤められた音沢地区か
ら、六月お講の東狐・上
野地区に引き継がれるこ
とになります。東狐の川
瀬和美さんが会長に、川
瀬恒子さんが副会長に選
任され、新会長から新任
の挨拶がありました。閉
会式では佐々木ひさ子さ

んから挨拶があり、佐々
木会長が二年間の感謝の
言葉を述べました。



雪ん子劇団福光公演

十一月二十三日、南砺
市福光の吉江公民館主催
の文化公演会にお招きを
受けました。会場は福光
東部小学校体育館。折し
もインフルエン

ザの影響で観客
席はマスクの行
列。人数も多く
はありませんで
したが、雪ん子
たちは精一杯の
演技で舞台を勤
めてくれました。
中学生のOG二
人も舞台に客席



にと大活躍。雪ん子の幅
の広さを見せてくれたこ
とです。親の会からも同
行していただいて、大道
具の準備など大変活躍し
ていただきました。これ
また有り難いことでした。



二月

浦山お講

荻生・植木報恩講

生地報恩講

下立お講

舟見報恩講

入善報恩講

熊野報恩講

柝屋報恩講

三月

浦山お講

三日市報恩講

下立報恩講

浦山報恩講

柝沢お講

浦山報恩講

喜子七回忌法要

雪ん子公演

浦山報恩講

二九日

浦山報恩講

御正忌

ごしょうき
一月十六日は親鸞聖人の祥
月命日です。それに合わせ
てご法要を務めます。

一月十五日 午前十一時 お講

午後一時 法要

午後七時 釈の日

十六日 午前十一時 お講

午後一時 法要

福井千福寺住職
高務 哲量 師



御正忌ピックアップ

釈の日

一月十五日 午後七時

仏弟子としての名前「法名」を受式された方
を対象に、ここ十年の間に法名をいただかれた
方へご案内さしあげます。それ以前に受式され
ている方々や、法名ってなに？と思われる方も、
どうぞお参りください。

日曜学校
かるた会

一月三日 午前十時

本山御正忌
参拝旅行

一月十一日～十二日

御正忌準備

一月十四日 午前八時半



喜子
七回忌法要

三月二十五日

雪ん子公演

三月二十八日 午後四時

御正忌ろうそく代

御正忌法要にお持ちく
ださい。お参りできない
方はどなたかに託してい
ただけるとありがたいで
す。

※総代さんは集金しま
せん。

愚の力

『愚の力』は、空前絶後の
転形期を生きた私たちに、
確信にみちた言葉で道を示してくれる

末法の世に生きる現代人よ、愚者に学ぶ

大谷光真



西本願寺24代門主が説く
親鸞聖人の教えのすべて
文春新書より10月20日ついに発売

文藝春秋

合 掌

昨年は新型インフルエ
ンザの流行でどこもかし
こもその影響を受けたよ
うです。空華忌も門徒さ
んの法要と学生さんの法
要を分けて勤めざるを得
ませんでした。ほんこさ
ん廻りも、もしお坊さん
方がかかったらどうしよ
うかと対策を練っていま
した。みなさんはいかが
でしたか。お見舞い申し
上げます。

* * *

昨年末に行われた雪ん
子三十周年記念公演。よ
くここまで続いたものと
皆々様に感謝いたします。
小さな時からお寺に通つ
たご縁があつて、OB・
OGが子供連れでお寺を
訪ねてくれることをつく
づく有り難く思います。
今年の成人式にはまた、
新しい成人達が訪れてく
れること
でしょう。

(R)

